

都合の悪い多様性を、どう扱うか。

思想から「技術」へと昇華する、真の多様性論。

多様性とは、好きな違いを飾ることではない。
嫌悪したくなる違いを、破壊せずに扱う技術である。

私たちが愛する「美しい多様性」の罨

性別の多様性

国籍の多様性


身体的特徴の多様性

生き方の多様性

多様性を語る者の多くは、実は「自分が美しいと思える多様性」しか認めていない。

誰も傷つけない優しい社会を目指す言葉の裏に、大きな矛盾が潜んでいる。

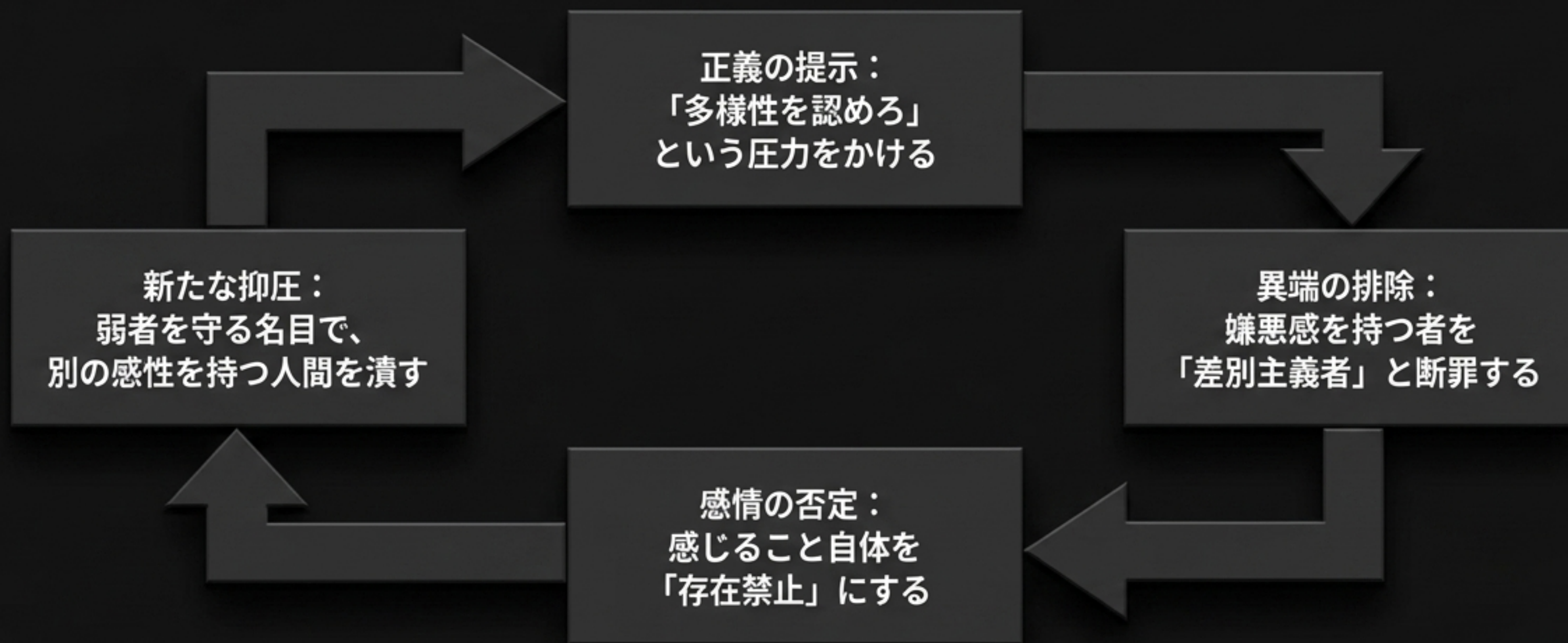
美しい世界に「異物」が混入した瞬間



では、その多様性を「気持ち悪い」と感じてしまおう人間の感性は、多様性ではないのか？

- 人間は、理解できないものを怖がり、見慣れないものに違和感を持つ。
- 自分と違いすぎる存在を、本能的に遠ざけたくなる生き物である。

正義の名を借りた「感性の独裁」



認める対象が変わり、殴る側が変わっただけ。
本人は「正しい側にいる」と思い込みながら、排除を繰り返している。

感情は「禁止」しても消滅しない

□ 表の顔（地上）

行動： 笑顔で「多様性は大事ですね」と同調する。

状態： きれいで、社会的承認を得られる。

存在するものを「存在するな」と言っても消えない。ただ地下に潜るだけだ。

✖ 裏の顔（地下）

行動： 嫌悪感を抱えたまま、何も言えず隠す。

状態： 感情が整理されないまま腐敗し、別の場所で汚く噴き出す。

真の多様性を生む「成熟した線引き」

【感情】

感じることは止められない。

嫌悪感、違和感、恐怖。これらは発生して当然のもの。

**嫌悪感を持つことと、
それを理由に相手を踏みに
じることは全く違う。**

【行動】

だが、感じたまま人を傷つけるな。

排除、侮辱、制度的不利益を与えないこと。

感情と行動の現実マトリクス

External Action

排除する (Exclude)

破壊しない (Do not destroy)

Internal Emotion

好き
(Like)

美しい多様性
(簡単なこと・好みの問題)

嫌い
(Dislike)

ただの差別・思想警察
(感情のままに相手の居場所を奪う)

【真の多様性】
嫌いなまま、理解できないまま、尊厳を守る

多様性は「思想」ではない。「技術」である。

偽物の多様性（思想）

【目標】 みんなを好きになりましょう

【感情の扱い】 嫌悪感を「悪魔化」し、
矯正・排除する

【本質】 自分が受け入れやすい違いを
並べる「正義ごっこ」

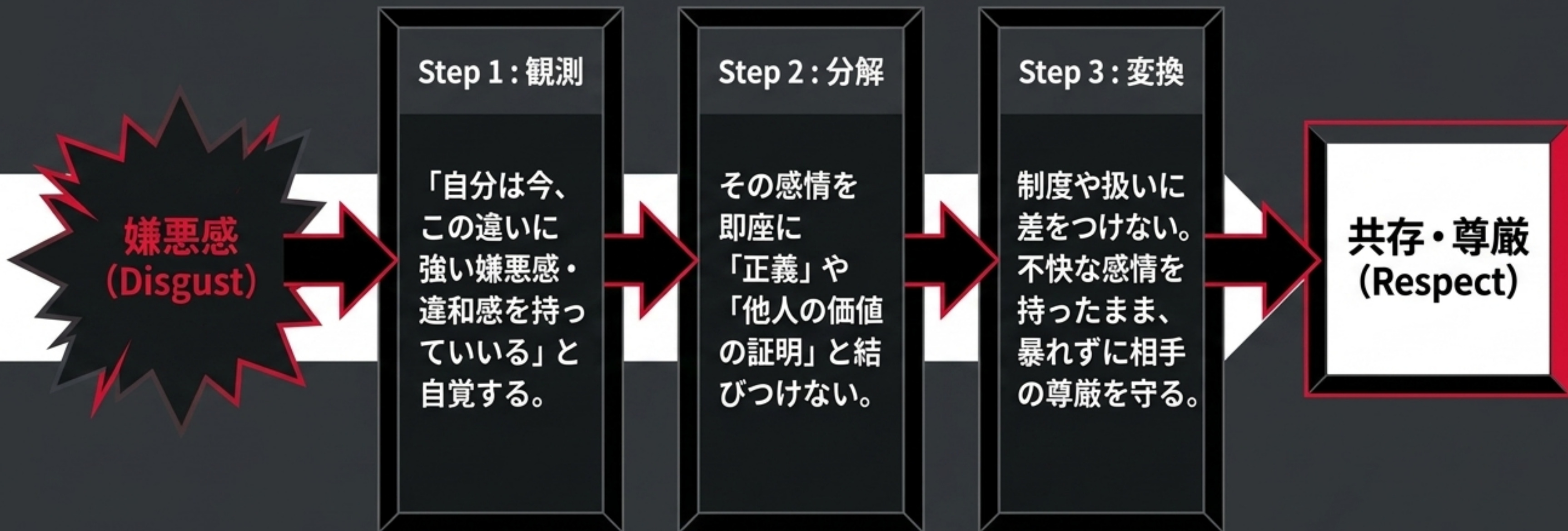
本物の多様性（技術）

【目標】 好きになれない相手を、
好きになれないまま破壊しない

【感情の扱い】 嫌悪感を観測し、
行動から切り離す

【本質】 認めがたいものが現れた時に、
自分の正義が試される「構造」

感情を行動に変換する「技術」のプロセス



社会を前進させるのは「断罪」ではなく「教育」

嫌悪感を
持った人間

【失敗するアプローチ：断罪】
「お前は最低だ」と切り捨てる。

結果：相手は黙り、隠し、何も変わらない。

【成功するアプローチ：教育】
「そう感じたんだな。
でも、その感情を相手にぶつけるな」
と教える。

結果：感情と行動を分ける訓練となり、
共存が可能になる。

多様性を語る者の本性が現れる瞬間

それは、自分が好きな違いを見た時ではない。

自分が心底「嫌悪する違い」を見た時に現れる。

本気の多様性TMは泥臭い。不快な感情も、差別的な衝動も出る。

それでも、そこで相手を壊さない自制心を持てるか。正義がどこまで耐えられるか。

真の多様性とは。

嫌いなまま、壊さないこと。
理解できないまま、排除しないこと。
不快なまま、尊厳を守ること。

そこまで行って、初めて多様性は思想から「技術」になる。